

気候変動適応研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・ 質問など	<p>魚類の鉛直分布に対する気温上昇の影響は、今後の生態系に大きな影響が出る可能性を示しており、重要な成果である。国際連携や国内の詳細な生態系の変化に関する研究も重要な取り組みであると考えられる。政策研究に関しても農村社会に関する報告など大変重要な成果であり、関係する機関と連携した取り組みに繋がることを期待する。</p> <p>地球温暖化の影響が湖水の深深度での貧酸素を引き起こし魚類等にも影響するとの知見、気温上昇に伴う蜂の活動範囲の低下やマングローブの生息範囲の減少は、温暖化防止をさらにアピールするうえで有意義。温暖化による熱中症対策に気候経験データを加えることは、より実生活に合った地域毎の適応策の提案に繋がる優れた社会実装である。</p>	<p>ご期待及び貴重なアドバイスを感謝する。最終年もより成果を創出すべく努力したい。</p> <p>評価いただきありがたい。引き続き成果を創出できるように努力するようにしたい。</p>
今後への期待 など	<p>今後、メカニズム解明→影響評価→適応策の提案と実践、という一連の流れを促進する事例が多く生み出されることを期待する。市民参加型調査による影響予測評価は、市民科学の先導的な事例として高く評価でき、適応策の検討においても市民参加型のアプローチが適用できると大変面白い。</p> <p>洪水や熱中症など、また山林の後退など被害が増大する中で、ますます重要性の高まっているトピックである。緩和と適応の両方に資するような都市部のNbS (Nature-based Solutions : 生態系を活用した社会問題解決) 関連の政策遅れに鑑み、樹幹被覆率のデータ整備や、自治体等における活用の可能性を広げることも今後期待する。</p> <p>気候変動適応の分野は多岐にわたるので、国環研で取り組めることは限られている。環境省の推進費などに係わることもひとつの方向だが、A-PLAT はかなり学術的な内容も入っていると思うので、進化させた学術版 A-PLAT は検討できないか。</p>	<p>評価いただきありがたい。適応策の検討における市民参加型アプローチは次期中長期で検討させていただきたい。</p> <p>貴重なアドバイスを頂きありがたい。次期中長期では緩和も視野に入れた適応研究を発展させるべく計画していきたい。</p> <p>貴重なアドバイスを頂きありがたい。いただいたアドバイスは欠けていた視点なので、次期中長期に向けて検討させていただきたい。</p>

気候変動適応研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について	国際コミュニティのけん引について、欲を言えば、日本発で実験プロトコルなどを発信して、海外研究者をまとめて引っ張っていけるような活動があるとよい。	貴重なアドバイスありがたい。CCCA 全体として国際的なリーダーシップを発揮できるように努力していく。
の評価・質問など	新しい研究分野ではあるものの、担当研究者の努力によって、着実に成果が上がっている。特に地域気候変動適応センターと協力して進められる研究は、日本の各地域の適応計画や適応策策定に大いに役立っていると評価する。	ご評価いただきありがたい。引き続き成果を創出できるように努力し、次期中長期に向けて加速していく。
今後への期待など	気候変動適用分野の活動は国内外を問わずローカルになる。地域の経験を共有する手法は国際的に開発されるべきだが、論文ベースの共有にとどまっている。活動自体を多言語環境で共有できないだろうか。	貴重なアドバイスありがたい。活動そのものの多言語環境で共有する点に関しては、AP-PLAT や他国の気候変動適応情報プラットフォーム運営組織と連絡しながら模索していきたい。
	市民参加型の研究なども成果があり、適応策を社会に連携することにおいて有効と考える。小中学生との取り組みなども将来的な社会との連携や人材育成に有効なのではないかと思う。ぜひ積極的に行っていただきたい。	貴重なアドバイスありがたい。アドバイスに従い、社会との連携や人材育成も視野に入れた研究を推進していく。
	気温上昇の生物への影響や、それに伴う環境変化の影響は大変大きいのが、どこに注目して研究していくのか、得られた知見をどう発信していくのが重要。時間と空間の情報を正確に捉えており、将来予測に極めて重要な役割を果たしていると考えられる。今後、これらの取り組みが関連する機関や組織と繋がり社会の変容に繋がることを期待する。	貴重なアドバイスありがたい。アドバイスに従い研究を推進し、社会変容に繋がるように努力していく。